

目的 洗淨の衛生的効果に関する報告は数多くみられるところであるが、殊に中性洗剤による効果などは報告により幾らか異論のあるところである。讀者らはその事実および洗淨の実態について知ろうと、二, 三の台所用品を用い、細菌的に追求することにより若干の洗淨効果を調べた。

方法 タワシ・フキン類：家庭で長期間使用されていたスポンジ、硬質スポンジ、亀の甲タワシ、フキンを各々無菌的に均等に分割し、各1部につき無処理、水洗、中性洗剤洗、日光消毒、熱湯消毒処理した。この各処理試料を細切し、滅菌生理食塩水で振盪稀釈後、標準寒天を用いる混濁平板培養法により一般細菌数を、またBGLB発酵管を用いるMPN法により大腸菌群数を測定した。サラ類：洗淨滅菌したガラス、陶器、プラスチック、アルマイト製のサラの各平坦部に、あらかじめペプトン水に培養したE. coli Bの菌液一定量を塗抹、乾燥し、各種サラの各々1枚ごとに無処理、水洗、中性洗剤洗処理した後、この各サラ残存菌数を洗い落し法ならびにMPN法により測定した。

結果 1) タワシ・フキン類の除菌効果は、たとえ短時間であっても熱湯を注ぐのが最高抜群で、日光消毒がこれに次ぎ、中性洗剤による効果はみられないか、あるいは極くわずかであった。2) サラ類の除菌効果については、上記と異なり中性洗剤による洗淨成績のよいものがあった。中性洗剤の洗淨力は、汚染の種類、被洗淨物によっていくらか異なる様である。